

令和6年度 第1回 鈴西小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年5月7日(火) 10:00～11:40

2 場 所 鈴西小学校 多目的ホール

3 委員長挨拶

ゴールデンウィークが終わって、いよいよ本格的に学校の教育活動が始まっている。コロナも5類になって1年、通常の形に戻りつつあると思うので、ますます「地域の学校」となるよう、学校と地域の絆を深めていきたい。子どもたちが未来に向かって育つ支えになれるような、これまでより一歩進んだ学校運営協議会にしていきたい。

4 学校長挨拶

今年度より校長として本校に着任し、不慣れなこともあると思うが、よりよい学校をつくっていききたいと思っている。

新年度がスタートしてちょうど1か月。連休が明けて、子どもたちもまだゆっくりしたい気持ちもあると思うが、日常の学校生活がまた始まる。

鈴西小に赴任し、素朴な子どもが多く、接しやすいこと、あいさつが進んでできる子が多いと感じている。これまでの学校では、あいさつしたのが聞こえていても反応なく通り過ぎていく子が多かった。鈴西小の子は話しかけたら応えてくれる子が多く、中にはハイタッチをしてくる子もいる。素直な子どもたちに育っているのは、家庭、地域で大切に見守られているからではないかと思う。課題については、この後学校経営方針を説明する際にお話ししたい。みなさまからのご支援・ご協力をお願いし、よりよい学校づくりに邁進したい。

5 自己紹介

出席者が順に自己紹介。

6 協議事項

(1) 学校経営方針について

[学校長より学校経営方針を説明]

《委員の皆様から》

○今年はボランティアをふやして、もっと学校に協力していけるようにしたい。地域の協力が必要。

○昨年度はたてわり班学習(総合的な学習の時間)で鈴西小・地域のことを調べる学習があり、地域関係者として協力した。

○あいさつの話があったが、自分も散歩していると子どもの方からあいさつをよくしてくれる。老人会や地域住民もあいさつをするようにしていきたい。

○大人は照れくさいのか、あいさつしない人もいる。学校だよりで「地域の方もあいさつを」という啓発をしてはどうか。

○長期欠席児童が少し多いと感じた。子どもたちが毎日行きたいと思えるように、地域・保護者があたたかく見守ることが大切。「友達と遊ぶのが楽しいから行きたい」というのもよいと思う。

○自分はよく周囲から「昭和の時代じゃない。昭和の考え方で発信しないで」と

言われる。子どもが「学校に行きたくない」と言ったら、自分なら「バカヤロウ」だが、テレビでは親が子どもの気持を受け止めることが一番大切だと言っていた。はたしてそれでいいのかなと思う面もある。

⇒不登校については全国的に課題になっている。欠席し始めたとき、その子の様子に何かしらの変化があり、担任や保護者がその子の困り感や不安が何かをキャッチして早期に相談できるようにすることが大事。適応指導教室等の活用も視野に入れて、柔軟に対応していく。

○学校に行けない理由を子どもに問い詰めるのではなく、見守ることが大事。疲れてきたら休憩も必要だし、無理をさせず、大人が受け入れてやることが大切。昭和的な考えが一概にダメなのではない。うまくかみ合わせながら、一番よい方向に進めていきたい。

○明日は5年生の田植えがあるが（※毎年、農業法人クマダの方々に準備・協力していただき、田植え、稲についての学習、稲刈り等で5年生がお世話になっている）、ボランティアが足りなくて困っている。

⇒地域ボランティアについて、募集の用紙を準備している。各地区の自治会長の方に回覧・周知をお願いして、地域みなさんに協力してもらえるようにしていきたい。人が集まりやすい体制を整えていきたい。

○深溝では4年前から「わらアート」を作っている。田植え、稲刈り、餅つき等、子どもたちに参加してもらっている。塾や習い事など、それぞれの家庭の事情もあって、年々参加者が減ってきている。PTAの協力を得て、進めていきたいと思っている。

○石薬師小学校では、テント張り、草刈り等を町づくり協議会が進めている。昔と比べてPTAの動きが縮小されているように感じる。自分の子どもに関わることなので、もっと協力できたらいいのにと感じる。

○昔は今よりも余裕があり、地域のために活動しやすい状況があった。今は、地域・親同士のつながりが少なくなり、地域のための活動に出ようと思っても、一歩踏み出しにくい状況になってきている。

○今の親世代が「地域に協力できない、しない」と決めているわけではない。PTA本部役員という立場に就くとよく分かる。役に就かないと「自分がしなくても、誰かがしてくれる」という意識がある。共働き率が上がっていて時間がない人も多いのと、協力できる時間はあっても自分から手を挙げることはなかなか難しい。今日の学校運営協議会があること自体を知らない人が多いのではないか。まずは知ってもらうことから始めたい。

○ボランティアが不足していることが、多くの保護者の方に分かってもらえていない。昨年度、ボランティアが全然足りていない状況を知り、「それならば少しでも」と考えて、させてもらうことにした。

○PTAの役員は、女性が多いように感じている。

○多くの学校で、男性よりも女性の方が多くのではないかな。男性に関わってもらう機会が必要。

○入学式や卒業式、運動会などの行事は両親そろって参加している姿が多いと思うが、PTA活動になると女性が多いようだ。

○家庭で話し合うこと、夫婦で話し合うことが大事。

○男性が子育てに興味がないわけではない。学校に行けば女性ばかりという状況だと参加しにくい。男性の方々に「おもしろい」と思ってもらえる体験をつくる必要がある。

○課題はたくさんあるが、今日のようにこの場で話し合うことが大切。

7 情報交換・その他

○キッズウィークの取組について

今年度のキッズウィークは、4月30日（火）に実施した。
それに伴い8月22日（木）が登校日になる。

○学校配当予算について

本年度予算を配付し説明。

○卒業式の服装について

今年度も6年生保護者に向け華美な服装での卒業式への参加をひかえていただくという文書で啓発した。

○いじめ防止基本方針について

本校のいじめ防止に対する取組（早期発見・組織対応等）の説明。

○学校ボランティアについて

（協議事項の中でボランティアの話が出て、学校長から話した）
地域の協力が得られるよう周知し、体制を整えていく。

8 教育委員会より（鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課 加藤稔明先生）

○地域の協力という点では、どの学校も近年のコロナ禍で地域の方の来校を控えてもらっていた。それを「以前のように来てください」と言っても、うまくいかない。一度学校への足が遠のくと、協力してくださっていた方々の状況も変わっていて、今はもう学校には行けないという場合も多い。

○急に地域の協力体制を整えるのは難しい。どのように進めていったらいいのか。文書を配付しても、なかなか人は集まらない。集めるには、口コミで何度もアピールしていくことが大事。
明日（5月8日）、地域コーディネーターの交流会の中で、旭が丘小学校の実践発表があるが、口コミで人を集めて活動を広げている。

○PTAの協力については、なかなか難しい面もある。どう発信していくかが大切。「何か自分もやってみよう」という気持ちになってもらえるような発信、どのように協力をしてもらったらいいか等も、この学校運営協議会の場で検討していくとよいのではないかな。
母親の方が子どもとの距離が近いことが多い。本当は、子育ては両親が同じ距離でないといけないと思う。この場でもそういった話をしたり、学校からも発信したりしてもらえるとよいのではないかな。

○今日は活発な意見交流をすることができた。委員長が司会して進めてもらえたのが良かった。今日のような雰囲気での話し合いを続けていきたい。